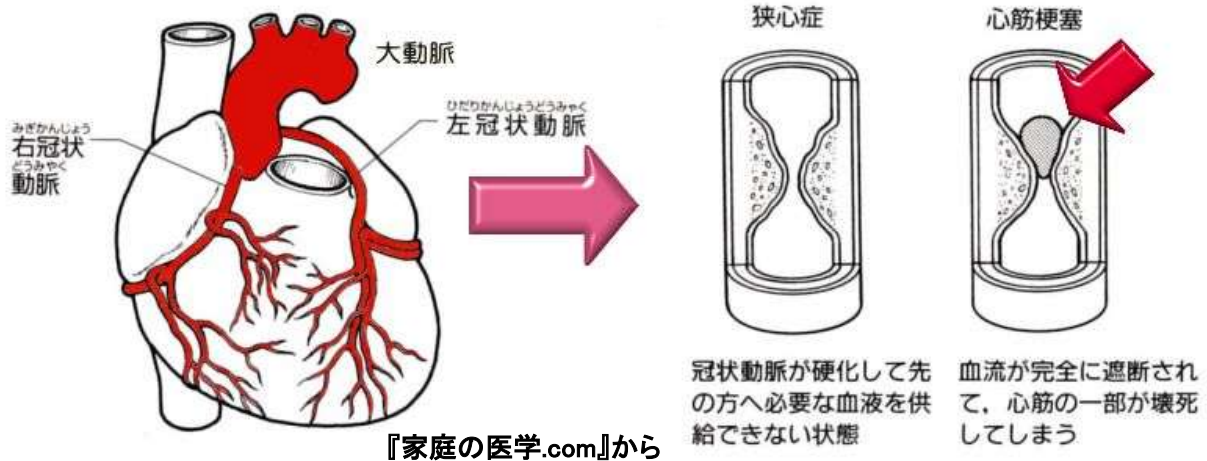


週刊 タバコの正体

タバコは味覚や嗅覚、それに視覚にも悪影響を与えますが、たちまち命には別条はありません。でも、生命の危機に直結する重大な心臓の病気を招くことがあります。その病気の名前は“心筋梗塞(しんきんこうそく)”と言います。



心臓は、全身に血液を送るポンプの役割をしています。1分間に60回～70回(一日あたり約10万回)も収縮して大動脈に血液を送りだしているのですから相当なエネルギーが必要です。だから心臓自体の筋肉(心筋)に血液を供給するために、“^{かんじょうどうみやく}冠状動脈”という血管が心臓を取り囲んでいるのがわかりますよね。

この冠状動脈が詰まってしまう病気が“心筋梗塞”なのです。冠状動脈が詰まってしまうと血液が届かなくなった心筋が死んでしまいますから、心筋梗塞の致死率は30%～40%と推計されていて、亡くなった患者の半数以上は病院に到着する前に死亡されているそうです。怖い病気だと思いませんか。

では、どうして冠状動脈が詰まってしまうのかというと、中性脂肪やコレステロールが沈着して血管が狭くなるのが一番多い原因だそうです。一般に言われている“^{どうみやくこうか}動脈硬化”と同じことが心臓で起きてしまうのです。動脈硬化が進むと、だんだん心臓に十分な血液を送れなくなり心臓に痛みを覚える症状がでます。これが“^{きょうしんしやう}狭心症”と呼ばれる病気です。

さて、この“心筋梗塞”や“狭心症”は喫煙と大いに関係があるのです。その証拠にタバコのパッケージには「喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。」という警告文が印刷されていますからね。

「えっ、そんな危険なのに何で買うの？」って思いませんか。

産業デザイン科 奥田 恭久